

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年7月21日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890400047		
法人名	社会福祉法人 和風会		
事業所名	グループホーム 秋明館	ユニット名	南棟
所在地	〒306-0126 茨城県古河市諸川2528-1		
自己評価作成日	平成21年12月1日	評価結果 市町村受理日	平成22年7月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成22年1月19日	評価確定日	平成22年6月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1日でも長く、安心した、健康な生活が続けられるように、ご家族様、職員、主治医、併設の特養の職員が連携して取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

全職員がメモ帳を常に所持し、理念はもとより利用者へのサービスに対し自分の気づきや果たすべきことをメモにとりながら日々自己研鑽に努めている。
併設の特別養護老人ホームと夜間の協力体制を築いているほか、身体拘束をしないケアや事故防止などの研修会を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員が、理念をよく理解しており、又携帯できる大きさの物を常に持つことで理念をいつでも再認識できるようにしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成するとともに、玄関や事務室、職員トイレに掲示している。 全職員は理念が書いてあるミニノートを携帯し、職員会議で確認し共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の身近なボランティアを受け入れたり、近隣の保育園の園児との交流会を行っている。	自治会には未加入であるが年間を通して傾聴ボランティアや歌、踊りのボランティアを受け入れている。 近くの保育園児がぬり絵やクッキーなどを持参したり、中学生が体験学習で来訪するなど、利用者は地域の人々と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学校等からの職場体験等の実習生の受け入れ依頼がある場合、積極的に受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年1回しか出来ない。 前年度の評価報告、サービスの実施報告や情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、民生委員、管理者、職員で年1回開催している。 会議では外部評価を含めた事業報告、事業計画、運営状況などを説明しているほか、出た意見等はサービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議は委員に地域関係者を加えるとともに市担当者の協力を得て2ヶ月に1回開催することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は報告書などの書類提出時や入所判定会(特養)などで市担当者と交流している。	管理者が特別養護老人ホーム入所判定委員会などの委員になっている関係から、市担当者と話をする機会が多く書類提出時に事業所の状況を伝え、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことの意味を理解し、見守りの強化などで、極力対応し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	併設の特別養護老人ホームと合同の身体拘束廃止委員会があり、「身体拘束が禁止されているのは何故か」、「緊急止むを得ない場合の条件とは何か」、「欲求の拘束、感情の拘束」などを学習し、管理者や全職員が禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解している。 玄関は施錠していないが、玄関の両脇にあるユニットの出入口は不審者侵入予防のため家族等の承諾を得て施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束をしない取組と併せ、虐待が見過ごされないよう、勉強会などを通じ、指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1回ある勉強会にて、理解を深め、権利擁護を利用中の入所者の利用状況を確認しながら、必要と思える利用者にはアドバイスできるように資料を用意している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の説明が不十分であると、誤解を招く恐れがあり、苦情、不満の種になることから、共に支援してゆく者としての施設の役割、家族の役割について十分な説明を行い、理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等の全員の意見を聞ける場がないため、家族の来館時には利用者個人のことのみにとどまらず、運営についてもご意見要望がないか確認している。意見箱も取り入れている。定期的に、要望を取りまとめ、対応について明示した文書を掲示している。	玄関に意見箱を設置しているほか、家族等の来訪時に意見や要望を聴くように努めている。 今年度は家族等から意見が2件寄せられ、管理者は対応結果を掲示したり運営推進会議で説明するなどして運営に反映させている。	利用者や家族等の意見をより多く把握できるように定期的に事業所だよりを発行したり、家族等へ無記名のアンケートを実施することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	基本的に、リーダーが意見をすいあげ、全体会議等の場で提案を行っている。	管理者は会議で職員の意見等を汲みあげるとともに、出た意見等を併設の特別養護老人ホームとの合同会議で提起し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し、各自が向上心を持ち続けられるように、いつでも対話できるように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設の特養にて、介護・看護を対象とした研修が内容を変えて、毎月実施しているのでGH職員も参加している。研修は職員の勤務状況等を考慮して、同一研修を2回/毎月実施して、広く参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム単体での交流はない。利用者のケアマネージャーと意見交換は行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に利用についての説明を行う際、担当する職員を同席させ、一緒に生活する上での課題、要望等を聞き、本人が安心して暮らせるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時、ご本人が困っている事、不安な事、求めている事などを伺い、安心して生活できる支援ができるように関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所等の相談があった場合、本人の状況を調査し、家族の要望を確認の上、ケアマネージャーと相談し、適切な対応が出来るよう状況判断の資料を集め、必要なアドバイスを行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事の準備をしたり、洗濯物たたみや、散歩等で、共に過ごし、利用者の話を聞きながら、学び、支え合っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、日常の様子を伝え、実際の様子を見てもらいながら、共に生活している者として対話し、実感していただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人、場所との関係が途切れないように、ご家族様と話し合い、外出、面会の支援を行っている。	利用者の親戚や知人など馴染みの人が面会に訪れた際にはお茶の接待をしている。 家族等が付き添い馴染みの美容院に行く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を把握し、散歩、体操、コミュニケーションが多く図れるよう、又、お互いに支えられるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、併設特養入所など継続的な関わりが必要な家族様には、関係を断ち切らない付き合いを心がけている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活でのご本人一人一人の思いや暮らし方、要望などを理解し、申し送り、カンファレンス等で確認し、更に理解を深めている。	職員は日常生活の中で利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向を把握できるように、申し送りノートを活用したりカンファレンスで話し合い検討している。 言葉を発せない利用者には表情や行動の変化に注意を払い、何を望んでいるのかを把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式での情報収集や事前評価をし、本人、ご家族等との面談を重ねて把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティングで一人一人の状況を確認し、バイタル、行動、言動等を確認し、心身の異変に気づくように努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティングや月1回の会議で、必要なアセスメントを行い、本人、家族、職員の意見を反映した計画を作成している。	介護計画は利用者や家族等の意向を確認し、日々のミーティングや毎月のカンファレンスを活かして利用者や家族等、職員の意見を反映し作成している。 介護計画は長期目標並びに短期目標を定め定期的に見直しているほか、心身の状態に変化が生じた場合は現状に即した内容に見直している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って、実践した結果を、日々記録し、カンファレンス等で情報を共有し、変化等を次の介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様が相談し、希望により福祉用具購入したり、往診可能な医師を紹介したり、移送サービスを活用して支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	カラオケ、踊り、傾聴などのボランティア活動を取り入れ、又、消防署などの協力を得て、救命救急講習、避難訓練を実施して、安心してらせるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に受診をお願いし、受診の際は、施設での状況等お手紙を添えるようにしている。又、往診に来てくれる医師の活用も進めている。	利用者全員が歯科を含め利用前からのかかりつけ医に家族等の付き添いで受診している。 受診時は職員が書いた利用者の心身の状態を家族等に渡し、適切な医療が受けられるよう支援している。 家族等の協力が得られない利用者は、かかりつけ医の往診が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員の気付きを、併設の特養の看護職員に相談し、看護師が確認して、適切な処置、受診等の看護が受けられるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院が必要な場合、サマリーを添えて情報を提供し、退院が近付いたら状況確認を行い、受入がスムーズに行えるように情報提供を受けられるような関係づくりを心がけている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>隣接の特養の看護師の支援を受けているが、重度化した場合、終末期を迎えた場合、基本的に対応可能な施設への移動をお願いしている。早い段階で、変化に対応できるように、日頃から家族と重度化にそなえて対応を検討している。</p>	<p>利用者が重度化した場合は、併設の特別養護老人ホームや医療機関へ移ってもらう方針である。</p>	<p>重度化した場合や終末期の事業所の方針を明文化するとともに、契約時に利用者や家族等に説明し同意を得ることが望まれる。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>避難訓練等と時期を同じくして、救命救急講習を実施しているので、積極的に参加している。救命講習未受講者は居ない、又、2年に1度は更新の為、再度受講している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>併設の特養と共同で防災訓練を実施している。</p>	<p>消防署立会いのもと、年2回併設の特別養護老人ホームと合同で夜間想定避難訓練を含めた総合防災訓練を実施しているが、地域住民と協力体制を築くまでには至っていない。</p> <p>災害に備え併設の特別養護老人ホームに食糧や飲料水を備蓄している。</p>	<p>災害時に地域住民の協力が得られるよう、運営推進会議を活用し防災訓練への参加を働きかけることを期待する。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーな声掛けは小声で行う、見下した言葉使いは使わない、入室時のノックの励行を心がけ、入所者様の誤認行動や発言にたいしては否定的な発言をしないで、尊重した対応を行っている。又、その人に合った言葉使いを心がけている。	プライバシーを損ねない言葉かけや対応などを職員勉強会で具体的に話し合い、対応に活かしている。 利用者の書類は事務室の鍵付きの書庫に保管し、個人情報への漏洩に留意している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いや楽しみが引き出せるような環境作りやゆっくりしたペースで対応し、自ら意思決定できるよう支援している。	/		/	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースを大切に、希望を察知できるよう日頃の会話を大切にしている。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の個性を大切にしながらも、身だしなみに留意し、毎日同じものを着ないように、着替えを勧め、概ね月1回の散髪利用を家族、本人と相談し行っている。				

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話でメニューの確認や嗜好を聴き、パターン化しないよう工夫している。 準備、片付けと一緒にできる方には、声掛けをして盛り付け、配膳、食器洗いなどを行っている。	利用者はできる範囲で下ごしらえやテーブル拭き、盛り付けなどの食事の準備や後片付けを職員と一緒にしているほか、利用者と職員と一緒に食事をしている。 年間を通しての行事では利用者の食べたいものを聞いたりしながら楽しみな食事となるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは栄養計算をされているが、摂取量で変化する為、摂取状態を把握し、不十分である場合は家族と相談し、栄養補助食品なども取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、義歯洗浄を声掛けや介助にて支援し、清潔保持に努めている。 ポリデント等の洗浄液には週2回実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを理解し、その方の習慣や様子を見て声掛けし、自立に向けた支援をしている。	職員は排泄チェック表を記録し利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、習慣や行動から察知して誘導しトイレで排泄ができるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の便秘の原因を考え、水分量や運動量を増やし、個人により乳酸菌飲料等を進めたりして便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	自由な入浴を希望するかたは居ないため、職員が声掛けして入浴を行っている。	毎日入浴できる体制となっているが、2日から3日に1回は誰もが入浴できるよう支援している。 入浴を拒む利用者には職員を代えて声かけ誘導するなどの工夫をしたり、柚子湯などで変化を取り入れ入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の自由なペースで過ごしていただいているが、遅くまで起きている方には、翌日のことをふまえて、就寝していただくよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院で処方された薬は、薬局からの説明書をファイリングし、職員が内容、用法等について常に確認できるようにしている。 薬の変更等ある場合、介護記録に記録し、服用後の変化を記録するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴や意欲、能力を把握し、生き甲斐が持てるような生活の営みができるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、敷地内であるが館外に出て音楽を聴いたり、歌を歌ったりしている。定期的に、買い物外出、外食行事を行っている。	利用者は季節の良い時期には事業所周辺を散歩している。職員は近隣公園の菊祭りなど、車椅子の利用者も一緒に出かけられるように支援をしている。利用者は家族等の協力を得て花見に出かけたり、帰りに買い物に立ち寄るなどして外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方は、職員が預り、買い物外出時などで使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により事務室の電話は使えるように支援している。レクレーションに暑中見舞い年賀状作りを取り入れ、希望する方に送付している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング等の共有空間は、安心して生活できるような設備、構造になっており、日常的な家庭的空間を大事にしている。	居間は角材の骨組みで吹き抜け風に天井を高くして天窓を設け、採光や換気に工夫をした造りとなっている。ひな祭りや七夕、クリスマスは利用者と職員と一緒に飾りを作り共用空間を飾っている。事業所の中庭の一角では野菜などを栽培し、季節や生活を感じられるよう工夫している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなで楽しむ場合、一人一人くつろぐ場合などの状況に合わせて、リビングでのテーブル、ソファ等の配置を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の使いなれた家財を持参していただき、必要な道具類はご家族様と相談して好みのものを用意していただくなど工夫している。	居室はエアコン、ベッド、家具を備え付けとし、それ以外は利用者の好みのものを配置している。 利用者は家族等の写真や位牌などを持ち込んでいる。 入口の引き戸の明り取り窓を布で覆い、落ち着いて休めるよう工夫をするなど、利用者はそれぞれに居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が一人で出来るように、利用する場所などに、分かりやすく場所を表示したりして自立した生活が送れるように配慮している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input checked="" type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 秋明館

作成日 平成22年7月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化対応が明文化されておらず、契約時に利用者や家族に同意を得ていない。	重要事項説明書に明文化し、契約時に他事項と合わせて説明する。	当事業所として出来る事を検討し、かつ、併設特養と連携して、具体策の検討会を実施して、明文化の内容を決定する。	平成22年12月より実施
2	10	利用者や家族の意見をより多く把握する為の取り組みが薄い。	利用者家族に定期的なアンケートを実施して、運営推進会議に報告する。運営推進会議の内容は利用者家族に報告する。	上記事項と合わせて、検討会で具体的な内容を検討する。	平成22年12月より実施
3	4	運営推進会議の回数と参加者の充実が必要。	自治会又は区の役員等の参加を得て、年6回を目標に実施計画を立てる。	古河市と連携し、出来るだけ中長期的に参加が可能で、福祉に理解がある方を推薦いただき参加協力をお願いする。	平成24年度までに目標達成に向けて、段階的に参加者及び回数を増加
4	35	防災訓練に地域住民との協力体制が無い。	地域住民との連携がとりにくい立地条件の為、近隣住民に災害時の協力依頼を行う。	当面、隣接特養を含めた各事業所の職員と消防署、自衛消防団との協力体制を構築する。	平成23年4月までに実施
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。